



令和5年度日本博2.0事業（委託型）

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA ふじのくに≡せかい演劇祭2024

会期：2024年4月27日[土]～5月6日[月・振休]

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

<完全版プレスリリース>



ふじのくに≡せかい演劇祭 2024

デザイン：阿部太一（TAICHI ABE DESIGN INC.）

「ふじのくに≡せかい演劇祭2024」

主催:SPAC-静岡県舞台芸術センター、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

ふじのくに芸術祭共催事業





パフォーマンスに心みひらく、ゴールデンウィーク

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、今年もゴールデンウィークに「ふじのくに≡せかい演劇祭2024」を開催いたします。“ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通じてダイレクトに繋がっている”というコンセプトのもと、国内外の最先端の舞台芸術を静岡で広く体験していただけるイベントです。

会期前半（4月27～29日）はSPACの活動拠点である静岡県舞台芸術公園で3作品。野外劇場「有度」では、[SPAC × 鳥の劇場]初の共同制作となる中島諒人演出の『友達』、屋内ホール「楯円堂」では瀬戸山美咲演出の『檜山節考』という骨太の2作品を上演。さらに石神夏希が園内各所をツアーする回遊型演劇『かちかち山の台所』を書き下ろします。そして後半（5月3～6日）は、トーマス・オスターマイヤーが率いるベルリン・シャウビューネの最新作『かもめ』が静岡芸術劇場に堂々登場！またメルラン・ニヤカムによるソロ・パフォーマンス『マミ・ワタと大きな瓢箪』は、グランシップ「こどものくに」との連携企画として上演されます。そして駿府城公園では、SPAC芸術総監督・宮城聡が岡倉天心の幻のオペラを今に蘇らせる新作『白狐伝』を野外上演。同時開催のストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡2024」では、三浦直之(ロロ)が街を舞台に市民参加劇を創作し、韓国からは中心街を移動しながら行う現代サーカスの招聘もごさいます。

劇場で、公園で、街で、パフォーマンスに心みひらく7日間、ぜひご注目ください。

■ 「ふじのくに≡せかい演劇祭」とは

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）では、1999年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第2回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPACが活動15年目を迎えた2011年からは、名称を「ふじのくに≡せかい演劇祭」と改め、新たなスタートを切りました。「ふじのくに≡せかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通じて、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくに≡せかい）」を理念としています。

■ SPAC（Shizuoka Performing Arts Center）

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center : SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。

■ 宮城聡 MIYAGI Satoshi

1959年東京生まれ。東京大学で演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。14年アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。平成29年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。2023年第50回国際交流基金賞受賞。



©加藤孝



ふじのくにせかい演劇祭2024に寄せて

「人は変わらない」と考える处世術がいま日本でひろまっています。「他者との関係に期待しない」という处世術ですね。

そのうえ昨今の世界情勢は<異なる価値観を持っていてもそれでも人間はわかりあえる>という希望を人々から奪い、その結果人々はいよいよ、ほかの人との関係に興味を持つよりも自分の持ち物を大事にしてその範囲で楽しもうという傾向を持つようになり、「他者と出会うことで自分は成長する」と考える人は減ってしまったように感じます。

しかし世界をこれ以上悪くしないためには、いま目の前の現実から「人間はこの程度のものだ」と見限ってしまうのではなく、現実を冷静に観察しつつどこかに希望を見いだせるはずだと探し続けることが必要なのではないでしょうか。舞台芸術は、「他者と出会うことで自分は成長する」という(シニカルな人からは「頭の中がお花畑」と言われそうな)理想が、しかしいまなお、本当に起きるのだと実感させてくれるジャンルです。舞台芸術は、いくなれば「地に足の付いた夢」なのです。

今年のせかい演劇祭は、ようやく、コロナ禍前と同じ状況での開催になったと思います。そして日本はライブエンターテインメントの活況が戻りつつあります。そのことは舞台芸術界で働く者として嬉しいことには違いないのですが、最近の活況は、「地に足の付かない夢」を強く前面に押し出す舞台に多くを頼っているように見えます。地に足の付かない夢、とここで表現した作品群は、それを観ることで自分が変化し成長することよりも、もともと自分の好きなものにいっそう肩入れすることを観客が楽しむタイプの舞台のことです。

そういう作品はわれわれに楽しみの時間を与えてくれる大事なものです。とはいえ、世界の現況に絶望してい

る人々を、(その絶望をいっとき「忘れさせる」のではなく、)希望の方へと引き戻すような舞台は、現実世界の苦さや複雑さをじゅうぶんに踏まえた上で、それでもなお光を灯すという苦闘によってしか生み出されないでしょう。こうした舞台は、その苦さゆえに、市場経済の原理で流通・消費されるのは困難でしょうが、もしも「観るためには観客の側にも努力が要る、集中力やエネルギーが求められる」作品がなくなってしまったら、それは、もし江戸時代に能が滅んで歌舞伎だけになっていたらと考えてみるとわかるように、舞台芸術の土台がやせ細りやがては花も乏しくなる結果をもたらすでしょう。

チャーホフや岡倉天心や安部公房が、きわめて苦い世界観をもちながら、その絶望ギリギリのところで希望を探そうとしていた姿、あくまでも他者との関わりの中で希望を発見しようと格闘していた姿を提供できる機会は、こんにちの日本の市場の状況の中からはなかなか作り出せません。

僕が、ふじのくにせかい演劇祭という仕掛けをSPACが担い、持続させてゆかねばならない、と考えるのは以上の理由からです。「観る側にもエネルギーが求められる」作品と出会うことは、この世界への自分のスタンスが変わってゆく契機になり、長く続く喜び、生きることの楽しさにつながります。

そして「フェスティバル」という非日常空間でなら、「観る側もエネルギーを出すこと」をためらわず楽しめるはずだし、そういう時空間をこそ作ってゆかねばならないと改めて強く思っています。

ぜひ初夏の非日常時空間に足をお運びください。

2024年3月15日

宮城 聡



ふじのくにせかい演劇祭2024 上演全ラインナップ

▶ 会期：2024 年 4 月 27 日[土]～5 月 6 日[月・振休]

舞台芸術公園

野外劇場「有度」

4 月 27 日[土], 28 日[日] [SPAC×鳥の劇場]共同制作 演劇 <<<静岡・鳥取

演出:中島諒人/作:安部公房

『友達』

屋内ホール「楢円堂」

4 月 27 日[土]—29 日[月・祝] 演劇 <<<富山

上演台本・演出:瀬戸山美咲/原作:深沢七郎
ならやまぶしこう

『楢山節考』

舞台芸術公園 ほか

4 月 27 日[土]—29 日[月・祝] 回遊型演劇 <<<静岡

演出:石神夏希

間食付きツアーパフォーマンス

『かちかち山の台所』

静岡芸術劇場

5 月 3 日[金・祝]—6 日[月・振休] 日本初演 演劇 <<<ベルリン

演出:トーマス・オスターマイアー/作:アントン・チェーホフ

『かもめ』

グランシップ 交流ホール

5 月 5 日[日・祝] 日本初演 ダンス <<<パリ

演出・振付・出演:メルラン・ニヤカム

『マミ・ワタと大きな瓢箪』

駿府城公園で同時開催！

ふじのくに野外芸術フェスタ 2024 静岡

駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

5 月 3 日[金・祝]—6 日[月・振休] SPAC 新作 演劇 <<<静岡

演出・台本:宮城聰 / 作:岡倉天心(『THE WHITE FOX』)

音楽:棚川寛子

『白狐伝』



『友達』



『楢山節考』



『かもめ』 © Gianmarco Bresadola



SPAC『天守物語』 ©平尾正志



ストレンジシード静岡2024

▶ 会期：2024年5月4日[土・祝]～6日[月・振休]

コアプログラム

青葉シンボルロード B3

5月4日[土・祝]～6日[月・振休] 演劇 <<<東京

テキスト・演出：三浦直之(口口)

オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト

『パレードとレモネード』

移動型パフォーマンス（静岡県庁前～駿府城公園）

5月4日[土・祝]～6日[月・振休] 現代サーカス <<<ソウル

『The Road to Heaven』

ほか オフィシャルプログラム / オープンコールプログラム (別紙参照)



ストレンジシード静岡

(写真上) ©阿部章仁

(写真下) The Road to Heaven

SCHEDULE

会場		作品	4 月			
			27 (土)	28 (日)	29 (月・祝)	
舞台芸術公園 静岡県	園内各所 (回遊型)	『かちかち山の台所』◇○	12:30	12:30	12:30	
	屋内ホール「楢円堂」	『檜山節考』◆	16:00	16:00	16:00	
	野外劇場「有度」	『友達』◎◇▲	18:30	18:30		
	稽古場棟「BOX」シアター前	お茶摘み体験をしよう！			9:30～ 11:30	
	てあとろん	カフェ／フェスティバル bar	11:00～22:00			
会場		作品	5 月			
			3 (金・祝)	4 (土・祝)	5 (日・祝)	6 (月・振休)
静岡芸術劇場 (グランシップ内)		『かもめ』◆	14:00	13:00	13:00	13:00
グランシップ交流ホール		『マミ・ワタと大きな瓢箪』◇	関連企画	関連企画	11:00	
静岡市街地 駿府城公園	紅葉山庭園前広場 特設会場	『白狐伝』◎◇	19:00	19:00	19:00	19:00
	東御門前広場	フェスティバル garden	11:00～18:00 (予定)			
	青葉シンボルロード	フェスティバル garden		12:00～20:00 (予定)		
	青葉シンボルロード	ストレンジシード静岡 2024 コアプログラム 『パレードとレモネード』○		11:00	11:00	11:00
	静岡県庁前～駿府城公園 二ノ丸御門跡広場 (移動型)	ストレンジシード静岡 2024 コアプログラム 『The Road to Heaven』■○		17:30	17:30	17:30
	駿府城公園、青葉シンボルロード、 静岡市役所・葵区役所ほか	ストレンジシード静岡 2024 オフィシャルプログラム他■○		11:00～18:00		

注意事項

- ◇…未就学児との観劇をご希望の方は、お問い合わせください。 ◆…未就学児との入場はご遠慮ください。
- ▲…背もたれのない客席になります。
- ◎…雨天でも上演いたします。客席では傘をご利用いただけませんので、雨ガッパなどをお持ちください。
夕方以降は冷え込みますので、防寒着をお持ちください。
- …小雨決行。荒天時の開催判断はプログラムにより異なりますので、公演当日にXでお確かめください。
- …客席はございません。地面に座っての観劇をお願いいたします。

託児サービス

下記公演では託児サービスをご利用いただけます。詳しくは演劇祭特設サイトをご確認ください。
『白狐伝』5月5日(日・祝)
『かもめ』5月6日(月・振休)



SPAC-静岡県舞台芸術センター×鳥の劇場]共同制作 演劇 <<<静岡・鳥取

『友達』

4月27日[土]、28日[日] 各日 18:30 開演

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演出：中島諒人 作：安部公房

出演：SPAC [阿部一徳、大道無門優也、たきいみき、武石守正、三島景太]

鳥の劇場 [中川玲奈、高橋等、小菅紘史、安田茉耶、後藤詩織]

[全席自由] 上演時間：未定 (120分を予定) 日本語上演／英語字幕

製作：特定非営利活動法人鳥の劇場、SPAC-静岡県舞台芸術センター

プレトーク：各回開演30分前より野外劇場前広場にて



稽古写真 ©平尾正志

いまを生きる私たちに深く刺さる！

安部公房の「黒い喜劇」が日本平の森に放たれる。

今年生誕 100 年を迎える安部公房の代表戯曲『友達』は、戦後日本が空前の好景気に沸く 1967 年に発表され、作家本人が「黒い喜劇」と称するブラックコメディの傑作です。「友達」と称して隣人愛を押しつけ、“個人”を取り込んでいく“共同体”の問題を扱う本作は、三島由紀夫から「羨望に堪へぬ作品」と絶賛されました。昭和の時代独特の空気を孕みながら、それが決して過去の日本固有のものではないことを、中島諒人の冴わたる演出が観る者に突きつけます。鳥取で「劇団」として共同作業を続けてきた中島が描く『友達』、都会の密室劇が夕刻の森に放たれます。

●『友達』鳥取公演●

本作は鳥の劇場ほかでも上演予定

日程：5/17(金)、18(土)、19(日)

会場：鳥の劇場

SPAC と鳥の劇場、初の共同制作。熟練の俳優たちによる競演がついに実現！

中島諒人が率いる劇団「鳥の劇場」は、鳥取市を拠点に 2006 年から活動しています。世界を視野に入れた作品づくりや、国際フェスティバルの実施、また地域に根差したアウトリーチ活動など、“劇場をもつ劇団”としての活動は SPAC と共通しています。『友達』では、それぞれの劇団から 5 名ずつ、ベテランの個性派俳優たちが出演します。男の部屋に居座る見知らぬ家族…、いずれもアクの強い登場人物たちを、鍛錬を重ねた双方の俳優たちが恐ろしいまでの熱量で演じます。SPAC に在籍していた中島諒人が古巣の劇場でどんな化学反応を起こすのか、初タッグにご期待ください。

あらすじ

ある夜、都会で一人暮らす男の部屋に見知らぬ家族が突然やってくる。彼らは男を孤独から救うためだと言って、そこに棲みついてしまう。男は家族を追いつめようとするが、家族は“共同体の素晴らしさ”を説くばかり。善意に満ちた笑顔で隣人愛を唱える彼らの行動は次第にエスカレートしていき…。

中島諒人 NAKASHIMA Makoto

1966年生まれ。大学在学中より演劇活動開始。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。06年より鳥取で廃校を劇場に変え、鳥の劇場を創立。二千年以上の歴史を持つ文化装置＝演劇の本来の力を社会に示し、演劇／劇場の深い価値が広く認識されることを目指す。芸術的価値の追究と普及活動を両輪に、地域振興や教育にも関わる。03年利賀演出家コンクール最優秀演出家賞。07年鳥取市文化賞。10年芸術選奨文部科学大臣新人賞。15年鳥取県文化功労賞。BeSeTo演劇祭日本委員会代表。

鳥の劇場

2006年1月、演出家・中島諒人を中心に設立。鳥取県鳥取市鹿野町の廃校になった幼稚園・小学校を劇場施設へ手作りリノベーション。収容数200人の“劇場”と80人の“スタジオ”をもつ。08年から地域や行政との協働による演劇祭「鳥の演劇祭」を実施。舞台芸術家のための創作の拠点として、全国、海外に開かれた場となることを目指すと同時に、演劇・劇場にしかできないやり方での地域振興、教育分野への貢献のあり方を模索している。



「ふじのくににせかい演劇祭 2024」についてのお問い合わせは

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当まで

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／E-mail：koho@spac.or.jp



演劇 <<<富山

ならやまぶしこう

『檜山節考』

4月27日[土・祝], 28日[日], 29日[月・祝] 各日16:00開演

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

上演台本・演出：瀬戸山美咲 原作：深沢七郎

出演：森尾舞 西尾友樹 浜野まどか 音楽・チェロ演奏：五十嵐あさか

[全席自由] 上演時間：70分 日本語上演／英語字幕

制作：SCOT

プレトーク：各回開演25分前より楢円堂ロビーにて



現代人が失った“生命の尊厳”を問い直す「棄老」の物語。

主人公おりんは「山へ行く」日を目指し、過剰なエネルギーを持続しながら生きている。そこには「棄老伝説」という言葉のもつ暗さとは逆の、明るさと強さがある――。

深沢七郎によって1956年に発表され、世に衝撃を与えた小説『檜山節考』を、今最も

勢いのある劇作家・演出家のひとり、瀬戸山美咲が舞台化。山に神を見る日本の原始的な生死観を土台に、集団における生と死を描き出す物語。死ぬ瞬間まで親を「生きているもの」として扱う寒村の人々の姿は、生きているうちから高齢者を集団から切り離し「なきもの」として扱う現代を鋭く照射しています。

動物的で崇高な生のエネルギーを、「楢円堂」の漆黒の舞台に封入する！

昨年、利賀芸術公園「利賀山房」で創作初演し話題となった本作を、舞台芸術公園の「楢円堂」で上演。3人の俳優に加え、今回はチェリスト五十嵐あさかが生演奏で参加します。俳優たちの動きは極限まで抑制され、至近距離で演じられる家族の濃密なやりとりにチェロが重なり、楢円堂の漆黒の空間を埋め尽くしていきます。民間信仰における死生観、そしてそれを通して、現代人が失った生命力の根を問い直す怪作です。

あらすじ

その村には、親が七十歳になったら子が背負って山に捨てる「檜山まいり」という風習があった。おりんは、山へ行く日を楽しみに、何年も前から準備をすすめている。一方、息子の辰平とその後妻・玉さんは、少しでも長くおりんと共にありたいと願っていた。

瀬戸山美咲 SETOYAMA Misaki

1977年東京都生まれ。劇作家・演出家。2001年にミナモトを旗揚げ。2022年3月より日本劇作家協会会長に就任。ラジオドラマの脚本、『アズミ・ハルコは行方不明』『リバーズ・エッジ』などの映画脚本も手がけ、コミュニティでのワークショップや創作にも継続的に携わる。2016年に『彼らの敵』が第23回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞。2020年『THE NETHER』で第27回読売演劇大賞優秀演出家賞に輝いたほか、第70回芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞。近作に、『スラムドッグ\$ミリオネア』（2023年／上演台本・作詞・演出）、『う蝕』（2024年／演出）など。





回遊型演劇 <<<静岡

間食付きパフォーマンス

『かちかち山の台所』

4月27日[土・祝], 28日[日], 29日[月・祝] 各日12:30開演

会場：舞台芸術公園 ほか

演出：石神夏希

出演：石井萌水、大内智美、小長谷勝彦、山崎皓司、吉見亮

上演時間：未定（120分以内）

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター



目で・耳で・足で・舌で…

舞台芸術公園を味わいつくす演劇体験へ

子どもから大人まで幅広く親しまれる昔話でありながら、残酷な報復の物語でもある『かちかち山』を題材に、石神夏希が静岡の風土と食文化を織り込んだ回遊型演劇を創作します。舞台芸術公園がある有度山は景勝地・日本平を有し、今もイノシシやタヌキが生息する土地柄。里山の風情がのこる自然の中を散策しながら物語と出会い、食べて楽しむ作品となります。石神のSPACでの演出は、『弱法師』（2022年／三島由紀夫作）、『お艶の恋』（2023年／谷崎潤一郎原作）に続く3作目で、今回は石神がこれまで各地で取り組んできたツアー型パフォーマンス。公園全体を舞台に見立て、演劇的手法で「いまここにあるもの」をとりこみながら、日常とはちょっと違う感覚の“場”を立ち上げていきます。

<注意事項>

※本公演は軽食付きの回遊型演劇です。（昼食は済ませてからご参加ください）

※10名前後のグループで舞台芸術公園の中を散策いたします。

※散策中は、イヤホンまたはヘッドホンを着用していただきます。

※未就学児との観劇をご希望される場合はお問い合わせください。

※小雨決行。荒天中止の場合あり。

※坂道や階段を歩くほか、足元がぬかるむ場合がありますので、トレッキングシューズや長靴のご使用をお勧めいたします。

石神夏希 ISHIGAMI Natsuki

劇作家。1999年よりペピン結構設計を中心に活動。国内外で都市やコミュニティのオルタナティブなふるまいを上演する演劇やアートプロジェクトを手がける。近年の主な仕事に「東アジア文化都市2019豊島」舞台芸術部門事業ディレクターおよび『Oeshiki Project ツアーパフォーマンス《BEAT》』作演出、「2019台北芸術祭ADAM Artist Lab」ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター（2021年度）他。SPACでの演出作に『弱法師』（2022）、『お艶の恋』（秋→春のシーズン2023-2024）がある。



©黒羽政士



日本初演 演劇 <<<ベルリン

『かもめ』

5月3日[金・祝] 14:00開演, 4日[土・祝] 13:00開演

5日[日・祝] 13:00開演, 6日[月・振休] 13:00開演

会場：静岡芸術劇場

演出：トーマス・オスターマイアー 作：アントン・チェーホフ

出演：トーマス・バーディンク、イルクヌル・バハドゥル、
ステファニー・アイトラウレンツ・ラウフェンベルク、ヨアヒム・マイヤー・ホフ、
ダーヴィット・ルーラント、レナート・シュッフ、ヴィンバイ・シュトレラー、エヴァン・テキン、
アクセル・ヴァントケ

[全席自由] 上演時間：210分（途中休憩あり） ドイツ語上演／日本語字幕

製作：ベルリン・シャウビューネ

※本公演は、舞台上に仮設客席を設置しての上演となります。

※未就学児との入場はご遠慮ください。※一部大きな音がする場面がございます。



©Gianmarco Bresadola

世界中で絶大な人気を誇る

オスターマイアー×シャウビューネの最新作が静岡へ！

ドイツの演劇界に大きな変革をもたらした演出家トーマス・オスターマイアー。同時代性を重視したセンセーショナルな演出は、世界中で支持されています。彼が率いる

ドイツの名門シャウビューネの最新作は、チェーホフ四大戯曲のひとつである『かもめ』。昨年3月に初演され、本拠地のベルリンではチケットが入手困難になるほど話題を呼びました。『かもめ』が書かれたのは、それまでの価値観が崩壊し、多くの若者が「本当にすべきことは何か」を模索していた革命前夜のロシア。湖畔の田舎屋敷を舞台に、芸術と愛に幸福を求める人々の群像劇はまた、演劇史のエポックとなりました。舞台は現代の都市に置き換えられ、チェーホフが作品に込めた「人生」と「芸術」に対する問いかけが、オスターマイアーの手により時代を超えて今を生きる私たちと重なります。

目前で語られる「芸術家」たちの心情、儚くも鮮烈な劇的体験が観客を待ち受ける。

オスターマイアー率いるシャウビューネは、本演劇祭での『民衆の敵』で13年ぶりの来日を果たし、客席を巻き込んだ圧巻の演説で観客を釘付けにしました。今回の『かもめ』では、静岡芸術劇場の舞台に仮設客席が生まれ、観客はその極上の演技を至近距離で味わうことができます。個性的な名優たちの中でも、流行作家トリゴーリンを演じるヨアヒム・マイヤー・ホフは、名だたる舞台で話題をさらう一方、作家としてもブレイクしている怪優。トリゴーリンが作家生活の内情を吐露するとき、マイヤー・ホフは自身の虚実を自在ににじませ、皮肉たっぷりに笑いを誘います。ベルリンでは、象徴的な大木がそびえ立ち客席を覆うように葉が茂っていたが、今回は大木のかわりに雄大な景色が目の前で描かれてゆくスペシャル版。まさに「その場限り」の劇的体験が待ち受けています。

あらずじ

芸術の革新を求める作家志望のトレープレフは、名声に憧れ女優を夢見る恋人ニーナの一人芝居を上演するも、著名な女優である母親に嘲笑されてしまう。ニーナはトレープレフの母親の愛人で人気作家のトリゴーリンに心惹かれ、彼らを追って旅立つが…

トーマス・オスターマイアー Thomas Ostermeier

1968年西ドイツ生まれ。演出家。31歳の若さでドイツを代表する劇場ベルリン・シャウビューネの芸術監督に就任。古典から同時代作家の尖鋭的な作品まで幅広く手掛け、毎年世界各地の演劇祭や劇場に招聘されている。その批評的でありながら生き生きとした寛大な演出は、社会における個人の役割を思い起させ、時代を超えた問題に焦点を当てている。

ベルリン・シャウビューネ Berlin Schaubühne

1962年設立。現在ではドイツ語圏で最も有名な劇場のひとつとなっている。常時約30人の俳優がアンサンブルを組んでおり、毎シーズン約10本の新作、30本以上のレパートリー作品を入れ替わりで上演するほか、海外での上演は年間約100公演にもおよぶ。近年における日本での公演は、『民衆の敵』（2018年／ふじのくににせかい演劇祭）、『暴力の歴史』（2019年／東京芸術祭）がある。



©Debora Mittelstaedt

「ふじのくににせかい演劇祭 2024」についてのお問い合わせは

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当まで

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／E-mail：koho@spac.or.jp



日本初演 ダンス <<<パリ

～グランシップ「こどものくに」連携事業～

『マミ・ワタと大きな瓢箪』 ひょうたん

5月5日[日・祝] 11:00開演

会場：グランシップ 交流ホール

演出・振付・出演：メルラン・ニヤカム

[全席自由] 上演時間：40分

製作：ラ・カルバス・カンパニー

ダンス？儀式？

摩訶不思議なニヤカムワールドがここに！

カメルーンで生まれ、パリで大人気のダンサー・振付家メルラン・ニヤカムが、アフリカの神話にもとづく摩訶不思議な世界を踊ります。SPACで2010年より中高生とのダンスプロジェクト「スパカンファン」を振り付けし、そのダンスは一度触れたら子どもも大人もとりにになってしまうエネルギーに満ち満ちています。アフリカの土着的な伝統を受けながら、今の私たちにひびく神秘を体現するソロ・パフォーマンス。



©Peggy Riess

あらすじ

海の女神マミ・ワタは、やさしく心惹かれる存在だが時に冷酷でもある。蛇にも結びついて連想される妖艶な動きは、私たちを変容／メタモルフォーゼの宇宙へとさそいこむ。ここでは、すべてのアイデンティティがひっくり返り、形をなくし、生まれ変わる。だれもが居場所を見つけられるハイブリッドな場。アフリカの精神を引き継ぐニヤカムが、日本で歌舞伎からもインスピレーションをうけ、普遍的な儀式的形式を新たなものにする。

メルラン・ニヤカム Merlin Nyakam

振付家、ダンサー、歌手、俳優、ラ・カルバス・カンパニー主宰(Compagnie La Calebasse)。14歳でカメルーン国立バレエ団に入団。16歳で主席ダンサーとなる。1990年にラ・カルバス・カンパニーを立ち上げ、91年金の穂賞、最優秀ダンサー賞などを受賞。92年よりフランスに拠点を移し、同国で絶大な人気を誇るモンタルヴォ・エルヴュ・カンパニーなどの作品に出演するほか、振付家としても活躍。SPACでは、2010年より「SPAC-ENFANTSプロジェクト」を手がけ、『タカセの夢』（2011年初演）、『Rebornー灰から芽吹くー』（2022年初演）などを創作するほか、自身振付の『遊べ！はじめ人間』（2007、08年／Shizuoka 春の芸術祭）を上演。



©Rakkana Poulard

ニヤカムさんとの交流タイム

ニヤカムさんと一緒にからだを動かそう！子どもから大人まで、だれでも参加OK、だれでも笑顔になる交流タイムです。

5月3日[金]、4日[土] 各日11:00-12:00 会場：グランシップ3階ロビー *無料・予約不要



同時開催 ふじのくに野外芸術フェスタ2024静岡

SPAC新作 演劇 <<静岡

『白狐伝』

5月3日[金・祝], 4日[土・祝], 5日[日・祝], 6日[月・振休]

各日19:00開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

演出・台本：宮城 聡 作：岡倉天心(『THE WHITE FOX』)

音楽：棚川寛子

出演：美加理、葉山陽代、池田真紀子、内山怜菜、大内米治、大高浩一、加藤幸夫、河村若菜
貴島豪、榊原有美、桜内結う、鈴木真理子、館野百代、寺内亜矢子、藤見花
布施安寿香、本多麻紀、森山冬子、吉植莊一郎、若菜大輔、渡辺敬彦

[全席自由] 上演時間：100 分以内 日本語上演／英語・中国語・韓国語字幕

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

プレトーク：18:15より フェスティバルgardenにて (SPAC文芸部 大岡淳)

プレパフォーマンス「ミニびゃこでん」：18:30より 特設会場前にて (県立清水南高等学校

芸術科演劇専攻)



『天守物語』より ©平尾正志

駿府城に現れる狐火——岡倉天心の幻のオペラ台本が今蘇る！

日本そしてアジアの美を世界に知らしめた智の巨人、岡倉天心。近代化・西欧化一辺倒の明治末期、日本にも欧米にも絶望していた天心の遺した物語がいま、宮城聡とSPACに手渡されます。日本で歌舞伎に親しみ、アメリカでオペラに親しんだ天心が、今後の世界への灯火(ともしび)とすべく死を前に英語で書き残したオペラ台本『THE WHITE FOX』。宮城聡が新たに台本化し、SPACが長年磨き上げてきた「二人一役」の手法と、俳優による生演奏、音楽性あふれるセリフ術、その唯一無二の劇的空間の中で、天心の最後の夢が形を現します。あたかも一夜、駿府城に現れる狐火のように…

千年以上語り継がれてきた愛の物語が、自然と人間の関係を静かに問う。

超自然的な力を持つ白狐コルハと人間が織りなす愛の物語。『白狐伝』の元となる「葛の葉伝説」は「信太妻(しのだづま)」として歌舞伎や文楽をはじめ様々な文学芸能でも親しまれ、長く語り継がれてきました。自然は人間が支配し収奪する対象ではなく、人間は自然の一部にすぎない。かつてたしかにあった人間の謙虚さに、もういちど気づいてほしいと願う、天心のかすかな希望。『白狐伝』で奏でようとしたその強い想いは、自然破壊が進む現代においてより重みを増している。宮城聡の最新作は、現代世界における演劇の最大テーマの一つである「環境」を扱った作品となる。

あらすじ

狐のコルハは殺されそうになったところを人間の男ヤスナに救われる。ヤスナの恋人クズノハが悪者にさらわれ、同情したコルハはクズノハに姿を変えてヤスナの前に現れ、二人は幸せに暮らす。数年が経ち、クズノハが無事であることを知ったコルハは…

浜名湖花博2024にて、SPAC『白狐伝』上演決定！

5月25日(土) 開演時間未定 浜松ガーデンパーク屋外ステージ *無料/花博会場への入場券が必要です。



ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡2024

5月4日[土・祝]、5日[日・祝]、6日[月・振休]

会場:駿府城公園、青葉シンボルロード、静岡市役所・葵区役所など静岡市内

予約不要・参加無料 ※一部予約制・有料の場合あり



なんだ？なんだ？なんだ？

まちの景観だけでなく、音・風・観客までもパフォーマンスに取り込んで、強力な磁場を発するかのよう、ストリートシアターは人々を惹きつける“場”をつくります。そこに出くわした人は、異様な光景に「なんだこれ？」と思わず口に出してしまうかもしれません。そう、未知との遭遇を生み出すのがストリートシアター。

フェスティバルディレクター：ウォーリー木下 / プログラムディレクター：若林康人 / イラスト：しりあがり寿

演劇 <<東京

ストレンジシード静岡2024／コアプログラム

オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト

『パレードとレモネード』

5月4日[土・祝]、5日[日・祝]、6日[月・振休] 各日11:00開演

会場：青葉シンボルロード B3

テキスト・演出：三浦直之（ロロ）

[全席自由] 上演時間：50分



©阿部章仁

50名以上の登場人物が織りなす無数の物語

「東京芸術祭 2023」での上演を皮切りに、ロロ主宰の三浦直之が書き下ろす群像劇プロジェクトが静岡に！大学生や市民参加作品として各地で上演されてきた。用意されているのは50名以上の登場人物のプロフィールと、1キャラクターにつき1ページの台本のみ。“彼ら”にまつわる短いエピソードをもとに構成された、新たなオムニバスストーリーが青葉シンボルロードで紡がれる。日常の一コマを何遍も積み重ねた先に浮かび上がるのは、時代や街、あるいは、わたしたちが生きている世界そのものかもしれない。

現代サーカス <<ソウル

ストレンジシード静岡2024／コアプログラム

『The Road to Heaven』

5月4日[土・祝]、5日[日・祝]、6日[月・振休] 各日17:30開演

会場：静岡県庁本館前から二の丸広場への移動型パフォーマンス

製作：ボン エン ジュール [観覧無料] 上演時間：未定

あるのは肉体とポールのみ。歩き、登り、落ち、また登る。その先に見える景色とは・・・

遠くから、長いポールを肩に寄せ、若い男がやってくる。ポールを引きずるように歩みを進め、時にそのポールによじ登り、さらにはそれを持ちあげ歌いはじめる。広場にでると男はポールを垂直に立て、その突先へ、天空へと登りはじめる。歩き、登り、落ち、また登る。繰り返されるのは、ある男の天国への道程。都市を背景にしたこのダイナミックなパフォーマンスは、「チャイニーズポール」とよばれるサーカスアートと、韓国の伝統的なパフォーミングアートを組み合わせた韓国の最新現代サーカス。シンプルでありながら不規則に繰り返される動きに、思わず息を呑む。



「ふじのくににせかい演劇祭 2024」についてのお問い合わせは

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当まで

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：koho@spac.or.jp



関連企画

◎お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園

4月29日[日] 9:30～11:30 ※雨天中止

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」前 集合

参加費：一般 700円、高校生以下500円、未就学児無料 [要予約](#)



お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園

© Natsumi Makita F4,5

◎フェスティバルcafé&bar (舞台芸術公園)

◎フェスティバルgarden (駿府城公園・青葉シンボルロード)

演劇祭のコミュニティスペース。プロデューサー：株式会社オフィススノド 代表 柚木康裕

●せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」

演劇祭の会場の一つである静岡県舞台芸術公園は、SPAC-静岡県舞台芸術センターの活動拠点です。その入り口にある休憩所「カチカチ山」を、古今東西の劇場の歴史がわかるミニミュージアム「てあとろん」として昨年4月にリニューアルしました。舞台芸術公園は、「自然との共生・調和」をコンセプトに整備され、園内には磯崎新の建築による野外劇場「有度」、屋内ホール「楯円堂」、そして稽古場棟「BOXシアター」などの施設が点在しています。これらの劇場には、古代ギリシアから中世ヨーロッパ、現代へと変遷してきた劇場建築のエッセンスがふんだんに盛り込まれ、公園は“生きた劇場博物館”のような場所でもあります。世界の劇場の変遷を知ると、上演される舞台もより楽しんでいただけます。期間中はカフェやフェスティバル bar も OPEN!

野外劇場「有度」



せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」

THE MINI MUSEUM OF WORLD THEATRE IN SHIZUOKA

休憩所「カチカチ山」内 住所：静岡県静岡市駿河区平沢 100-1

開館時間：10:00～18:00 [演劇祭期間中無休] 入館無料





チケット情報

★全て税込み

SPACの会会員先行予約開始 3月16日[土]10:00 / 一般前売開始 3月23日[土]10:00

チ ケ ッ ト 料 金	作品タイトル	白狐伝 友達 橋山節考	かちかち山 の台所	かもめ	マミ・ワタと 大きな瓢箪	パレードと レモネード
	チケット券種					
	SPAC の会 一般	3,500 円	2,500 円	5,900 円	2,100 円	2,100 円
	一般	4,200 円	3,000 円	7,000 円	2,500 円	2,500 円
	U25・大学生・専門学校生	2,000 円	2,000 円	3,400 円	2,000 円	
	高校生以下	1,000 円	2,000 円	1,700 円	無料・要予約	
	障がい者割引	2,900 円		4,900 円		

『The Road to Heaven』チケット販売はございません。（予約不要・観覧無料）

※各種割引を組み合わせるご利用はできません。割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。

演劇祭をお得に見るなら SPAC の会へのご入会がおすすめです！

2024 年度 SPAC の会 個人会員募集中！ 個人会員…¥10,500（税込）

SPAC の年間ラインナップから 3 公演にご招待などのお得な特典が盛りだくさん！

[特典招待枠対象：静岡芸術劇場、野外劇場「有度」での公演および指定公演]

演劇祭では、『かもめ』『友達』が特典招待枠対象公演となります。

※『かもめ』（全 4 公演）での招待枠利用は会員 1 口につき、1 公演（1 名様）のみとなります。

チケット購入方法

電話予約 SPACチケットセンター TEL：054-202-3399（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

ウェブ予約 <https://festival-shizuoka.jp>

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

当日券 残席がある場合のみ、開演1時間前より各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくは X (@_SPAC_) でお確かめください。

SUPPORT

<https://festival-shizuoka.jp/support/>

渡航費・運搬費の高騰や、為替レートなど、経済的な環境が厳しさを増す中、演劇祭をより多彩で持続可能な国際演劇祭へと発展させるため、ふじのくににせかい演劇祭では皆様からのご支援を募集しています。

フェスティバル・サポーター 1 口 100,000 円

▶演劇祭全公演への 1 名様ご招待、アーティストとの交流会参加 ほか

ポスター☆応援 1 口 5,000 円【非売品・限定 50 枚】

▶SPAC 新作音楽劇『白狐伝』B2 ポスターをプレゼント ほか

* 詳細は演劇祭特設サイトをご確認ください。



アクセス

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場・グランシップ（静岡市駿河区東静岡2丁目3-1）

JR「東静岡駅」南口から徒歩約5分。

電 車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約3分。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。

※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢100-1）

バ ス 無料チャーターバスをご利用ください。

※舞台芸術公園バスロータリーから各劇場へは徒歩5～10分です。

自家用車 ◎東名高速道路清水ICから車で約30分、静岡ICから約30分、日本平・久能山スマートICから約15分。

静清バイパス千代田上土ICから約25分。

◎日本平動物園より日本平方面へ1.8キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。

お願い 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車でお越しのお客様は、グランシップ一般駐車場等に駐車の上、無料チャーターバスのご利用をおすすめいたします。

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園1-1）

電 車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約15分。 ◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約12分。

バ ス ◎駿府浪漫バス「東御門」下車。 ※JR「静岡駅」北口10番のりばから約15分

自家用車 ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

青葉シンボルロード（静岡市葵区呉服町2丁目）

電 車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約10分。 ◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約10分。

お問い合わせ

SPACチケットセンター **054-202-3399**（10:00～18:00／休業日を除く）

◆「ふじのくににせかい演劇祭2024」の最新情報は・・・

SPAC公式サイト、[演劇祭2024特設サイト](https://festival-shizuoka.jp)にて、随時お知らせいたします。

演劇祭特設サイト <https://festival-shizuoka.jp>

S P A C公式サイト <https://spac.or.jp>

X @_SPAC_ / **f** SPACshizuoka / **ig** @spac_shizuoka / **yt** YouTube @spac_shizuoka

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場） FAX：054-203-5732

SPAC公式サイト：<https://spac.or.jp>

E-mail：koho@spac.or.jp [広報担当共通アドレス]

広報担当：坂本彩子(sakamoto@spac.or.jp) 計見葵(keimi@spac.or.jp)

西村藍(nishimura@spac.or.jp) 佐藤美咲(m_sato@spac.or.jp)